



平成24年11月26日
卓話 『人生をデザインする』
ファッションデザイナー／アーティスト
コシノヒロコ 様



コシノ・ヒロコでございます。カーネーションという素晴らしい朝ドラをNHKが作ってくださって、まさにあれは私たちの家族そのものでございます。どうやって3人の娘を世界的なデザイナーに育てたのかと母はよく質問されましたが、母は常に「何でも放つたらかしですねん」でした。姉妹喧嘩しても一切手を出さない。勝ったもんが勝ちやという思想でした。普通にお嫁さんになってお母さんになってという考え方は全然家の教育にないんです。自分のやりたいことを仕事にして社会に貢献する、それが私どもの思想で、それは自分で見つけなさいということでした。

私が一番影響されたのは祖父です。粋な人で歌舞伎や文楽など日本の伝統芸能をたっぷりと私に見せ、しっかりと日本の伝統的な美意識を育んでくれました。ビジネスの感覚を付けてくれたのはお母ちゃんです。母が子どもを育てる姿勢は単に放つたらかしではありません。才能を活かす方法は自分で見つけなさいという方針です。とにかく生まれた時から背中しか見せてもらえなかった。私たちはお母ちゃんに興味を引いてもらうために何だかんだやるんですけれども、自然振り向かず仕事一本です。その中で私たちはものすごくたくさんのお稽古事をさせてもらいました。長唄、三味線、琴、ピアノ、バレー、日本舞踊、書道、絵画、お茶、お花。学校に行くよりもお稽古事の方がすごい。おかげで私は今でも長唄のお三味線をやっています。

長唄という日本の伝統的な音楽の他の国の音楽と違うところは、鳴りものもお三味線も唄も、

コンダクターがいないのにあうんの呼吸でやるわけですね。この日本独特の間を体で覚えてしまうと、人と人との間、ものを作る瞬間の間に本当に独特的感性が現れてくるんです。日本独特的美意識、神髄を学ぶうえで長唄はものすごくプラスになりました。

私が先日KHギャラリーを持ったのは使命みたいなものを感じたからです。1、2階が私のブティックで、そのギャラリーは地下にあって所謂日本の現代アートの発祥の地なんですけれども、何でこんな素晴らしいギャラリーが私の前に現れたのかなって思った時、日本というものを題材にして私の感性で絵を描く使命を与えられた気がしました。私の描くのは水墨の抽象画です。絵の最初のテーマを18歳の眼差しとしたのは、スタイルだとかメソッドだとかではなく描きながらいろいろなことを発見していく素晴らしさが絵画にあるからです。やりながら新しいことを発見していく。これが私のファッションにも共通しています。

カーネーションみたいな、よくぞあれだけの家族のぐちゃぐちゃをテレビでやったなと思うんですけれども、それでもあが人の心の中に入るということは、日常の暮らしのベーシックなものがいかに大切かということ。さらにただ継承していくだけでなく新しい世代の中で蘇らせていく姿勢が必要だと思います。ありがとうございました。

